



昭和基地で測量を行う第65次南極地域観測隊員（国土地理院から派遣）と接岸中の「しらせ」

CONTENTS

1. 新たな「基本測量に関する長期計画」を策定	2
2. 新たな「国土地理院研究開発計画」を策定	2
3. 第65次南極地域観測隊帰国報告	3
4. 令和6年度（第65回）科学技術週間報告	5
5. 6月3日「測量の日」関連行事を全国各地で開催	6
6. 第53回国土地理院報告会 開催案内	10
7. 令和6年春の叙勲	10
8. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数	11
9. 4月の報道発表・6月の主な行事予定	11

新たな「基本測量に関する長期計画」を策定

国土地理院は、「基本測量に関する長期計画」（令和 6 年国土交通省告示第 371 号。以下「長期計画」という。）を新たに策定し、令和 6 年 4 月 1 日から施行しました。

長期計画は、測量法第 12 条に基づき、全ての測量の基礎となる「基本測量」に関する計画を定めるものです。昭和 28 年の第 1 次長期計画の策定から 70 年目を迎え、今回の長期計画は第 9 次となります。

長期計画は、基本測量の目標とそれを達成するための施策をあらかじめ明らかにすることにより、測量成果の利活用に必要となる測量の正確さを確保するとともに、基本測量成果を利用することにより様々な主体等による測量への重複投資が避けられるという測量法の理念を達成するために策定するものです。加えて、近年の長期計画においては、今後 10 年間（令和 6 年度から令和 15 年度）に国土地理院が目指すべき施策の方向性を定めるという面も備わっているという意味でその重要性が高まっています。

新たな長期計画では、重点的に実施すべき取組を次の 3 点としました。

1) インフラ分野の DX をはじめとした社会のデジタ

ル化の基礎となる基盤的なデータの整備に関する取組。

2) 測量のみならず測位分野における基本測量の役割の増大に対応した取組。

3) 新技術を活用し、デジタル社会のニーズに対応した地図情報の鮮度の向上と3次元化の推進に関する取組。

長期計画の期間については、各種の測量が正確かつ効率的に実施されるために、基本測量として一定期間継続して施行される必要があることを考慮して、これまで同様に 10 年間としましたが、高い実効性を確保しつつ変化し続ける社会情勢に即したものとなるよう、計画 5 年目で中間見直しの実施を行うこととしました。

新たな長期計画は、下記の URL でご覧いただけます。

<https://www.gsi.go.jp/kohokocho/sesaku202001.html>

（企画部）

新たな「国土地理院研究開発計画」を策定

国土地理院は、今後 5 年間（令和 6 年度から令和 10 年度）を計画期間とする新たな「国土地理院研究開発計画」を令和 6 年 4 月 1 日から施行しました。

国土地理院研究開発計画は、国土地理院の研究開発を担う地理地殻活動研究センターにより策定されたもので、「基本測量に関する長期計画」において示された国土地理院の研究開発に関する基本的な方向性に基づき、今後実施すべき研究開発の推進に必要な方策を示したものになります。

新たな計画では、災害リスク削減、地理空間情報活用の高度化、科学的知見の蓄積等に関する研究開発を推進し、最先端の測量分野の新技術や情報通信技術を導入・活用して、新たな研究開発を進めていくこととし、これを基本的考え方（ミッション）と位置付けました。

この基本的考え方に基づき、次の 4 つの中長期

的目標を設定しました。

- （1）国家座標の高度化
- （2）地理空間情報の効率的作成と高精度化
- （3）災害リスク削減への貢献
- （4）地理地殻活動の地球科学的解明

今後、これらの目標を達成するための研究開発に取り組んでまいります。

新たな研究開発計画は、下記の URL でご覧いただけます。

<https://www.gsi.go.jp/kenkyukanri/kenkyukaihatsukeikaku.html>

（企画部・地理地殻活動研究センター）

国土地理院は、1956年の第1次南極地域観測隊から継続して観測隊に職員を派遣してきました。今回は第65次隊の夏隊の一員として、令和5年11月24日から令和6年3月21日までの119日間にわたって派遣され、国土地理院が担当する測地分野の作業を実施しました。

●羽田空港から昭和基地へ

第65次隊は、11月24日に羽田空港を出発し、シドニー経由で翌25日にオーストラリアのフリーマントルに到着しました。

フリーマントルから海上自衛隊の「しらせ」に乗船し、5日間の船上隔離を経て、30日に南極へ向けて出航しました。出航して1週間ほどで南緯55度を超えると初冰山も見られ、さらに10日ほどで海氷域に突入しました。海氷域に入るとペンギン、アザラシの姿が見え始め、「しらせ」はラミング航行（船の自重を利用して海氷を割りながら進行すること）を繰り返しながらの航行になりました。昭和基地沖には予定どおりに接岸することができ、観測隊員のほぼ全員が、12月20日に「しらせ」からヘリコプターで昭和基地に入りました。



昭和基地に接岸する「しらせ」

●測地分野の役割とは

国土地理院が担う測地分野では、南極地域の正確な位置情報や地図などの整備（測地測量や地形情報の整備）を主目的にGPSをはじめとする衛星測位（GNSS測量）や無人航空機（UAV）などを利用した空中写真撮影を実施します。測量した成果は、南極地域における野外活動を支える基礎資料として利用されます。

また、国際的なGNSS連続観測局（IGS局：SYOG）の保守も行い、安定したデータ提供に貢献しています。これらの測量は、昭和基地のある東オングル島や南極大陸沿岸の露岩域、内陸部の氷床域で実施しました。今回は、実施した作業のうち、南極大陸沿岸の露岩域で実施したGNSS連続観測点の改修と昭和基地で行った空中写真撮影について紹介します。

●ラングホブデのGNSS連続観測点

ラングホブデは、昭和基地から約25km南方にある南極大陸沿岸の露岩域で、野外観測の拠点を担う地域です。第41次隊（2000年）において、この露岩域にGNSS連続観測点が設置され、大陸の地殻変動監視や氷床変動監視を目的に観測がスタートしました。

GNSS連続観測点の電力は、ソーラーパネルと鉛蓄電池で供給されていますが、極夜期には電力が受信機に供給されず、観測が停止してしまいます。第65次隊では、年間を通して観測を継続させるため、ソーラーパネルの増設と極夜期の微弱な電力でも発電可能な「キャパシタ」を導入した電源強化を実施しました。



改造後のGNSS連続観測点
(写真左：今回増設したソーラーパネル架台)

●無人航空機を利用した空中写真撮影

第 65 次隊では、昭和基地のある東オングル島全域（約 2km × 2km）を無人航空機で撮影しました。

使用した無人航空機は、垂直離着陸機（VTOL 機）といって、離着陸時は回転翼、指定した高度に達すると固定翼に遷移することにより、広範囲な飛行が可能な機体です。

南極では初めて飛行させる機体のため、入念にセンサーチェックや動作確認を繰り返してテスト飛行を行い、撮影を実施しました。機体を離陸させてからは、強風にならないことを祈り、無事に着陸させた時の^{あんど}安堵感は忘れられませんでした。今回の撮影結果は、昭和基地周辺の地形図更新に活用される予定です。

今後、垂直離着陸機（VTOL 機）により南極大陸沿岸の露岩域など、撮影範囲を拡大した計画が可能になることが期待されます。



昭和基地 A ヘリポートでの飛行前準備



無人航空機で撮影した
昭和基地（居住棟周辺）上空の空中写真

●南極地域観測隊に派遣されて

測地部門の隊員は、国土地理院 1 名しかいません。今回紹介した作業も当然一人ではできず、他部門の隊員に支援いただいて成り立つ作業です。さらに、想定外の機器トラブルや気象が安定しない日が続くと、思うように作業が進まないことも少なくありません。しかし、そのような環境の中でやり遂げられた作業には、感慨深いものがあります。

また、南極ならではの自然に触れたことも貴重な経験のひとつでした。ペンギンの営巣地では、ペンギンの卵やヒナを狙うオオトウゾクカモメに対して、ペンギンが集団で威嚇する光景やブリザード、オーロラといった非日常的な自然現象が印象に残っています。



アデリーペンギンとの写真



帰路の航海中「しらせ」で見られたオーロラ

最後に、南極地域観測隊参加への準備の段階から帰国まで、多くの方々に多大なサポートをいただき、ほぼ計画どおりに作業を実施することができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

（近畿地方測量部）

令和6年度(第65回) 科学技術週間報告

今年で第65回を迎えた科学技術週間は、科学技術に関し広く国民の関心と理解を深め、我が国の科学技術の振興を図るため毎年開催されており、4月15日から21日までの期間中、つくば市内の各研究機関において施設の一般公開が行われました。



公開中の「くにかぜ」

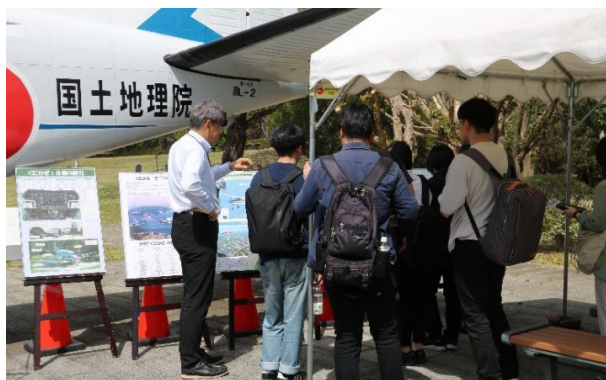
国土地理院「地図と測量の科学館」(茨城県つくば市)では、16日と18日に測量用航空機「くにかぜ」の内部を特別に公開しました。期間中の来館者数は、延べ108名でした。

「くにかぜ」公開を知り来館された方が熱心に説明を聞いていたり、研修で来館された学生の皆さんが楽しそうに見学されている姿がみられました。また、来館された方からは「地図づくりに興味が湧

いた」という声もありました。

この科学技術週間をとおして、「地図と測量」により一層関心をもっていただけたものと思います。

なお、「地図と測量の科学館」は、地図や測量に関する歴史、原理や仕組み、新しい技術などを総合的に展示する施設で土日も見学できます。今後も多くの皆様のご来館を心よりお待ちしております。



パネルの説明を聞く来館者



機内の操縦席に座る来館者

(総務部)

6月3日「測量の日」関連行事を全国各地で開催

国土地理院では、測量の意義及び重要性について、国民にわかりやすく伝え一層の理解を深めるとともに、地理空間情報のさらなる利活用の促進を図るため、関係省庁、地方公共団体、関係団体等の協力を得て、6月3日「測量の日」を中心に全国各地で関連行事を実施します。

国土地理院「地図と測量の科学館」（茨城県つくば市）では、6月2日（日）、「2024「測量の日」特別企画 ～地図 測量 × 触れる 学ぶ～」を開催します。

この企画では、国土地理院が提供している様々な地理空間情報をわかりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる内容となっています。

今年は、地理院地図体験イベントや企画展ガイド、本館関連施設の公開を行います。

詳しい内容については、地図と測量の科学館ホームページに掲載します。

▼「地図と測量の科学館」のホームページ

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

入場は無料です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



全国各地で行われる主な行事

●北海道地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
札幌市都市再生街区基準点の確認と清掃作業（札幌市）	5月15日～31日	北海道地方測量部 TEL 011-709-9299
運動公園測量ボランティア（旭川市）	6月3日	
最新測量技術及びICT建設施工に関する体験授業（北海道札幌工業高等学校）	6月12日	
「測量の日」特別講演会（札幌市）	6月25日	
令和6年度春季特別講演会（オンライン開催）	6月～7月予定	
第29回測量体験学習（札幌市内の小学校）	7月予定	
土木技術パネル展（札幌市）	8月6日、7日	
第45回「札幌市児童生徒社会研究作品展」（札幌市）	11月2日、3日	
第34回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」（旭川市）	11月16日、17日	
建設産業ふれあい展（札幌市）	令和7年1月予定	
第21回北海道測量技術講演会（札幌市）	令和7年2月予定	

●東北地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
「測量の日」記念－地図と測量のミニフェスター（仙台市）	6月1日	東北地方測量部 TEL 022-295-8611
山形県高等学校サーベイコンテスト（天童市）	6月5日	
測量フェスティバル（奥州市）	時期未定	
測量の日記念献血支援活動（郡山市）	時期未定	
デュアルシステム・地域のものづくり人材育成推進事業（仙台市）	時期未定	
測量技術講習会（宮城県）	時期未定	
測量出前講座（青森県）	時期未定	

●関東地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
「日本水準原点」（「電子基準点（東京千代田）」を含む） 一般公開（千代田区）	5月22日	関東地方測量部 TEL 03-5213-2051
「くらしと測量・地図展」（新宿区）	6月5日～7日	
測量体験学習・作文コンクール（茨城県）	6月中 8月（表彰式）	
学校プロジェクト（山梨県）	6月～9月	
測量研修会（山梨県）	5月、7月、 10月、11月	
小学校測量学習会（千葉県）	9月	
測量技術研修会（千葉県）	9月	
ちば地図展（千葉県）	時期未定	
「測量の日」記念事業（神奈川県）	時期未定	

●北陸地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
地図教室と測量実習（高岡市立戸出西部小学校）	6月13日	北陸地方測量部 TEL 076-441-0888
令和6年北陸支部空間情報技術事例発表会（富山市）	7月11日	
「ジュニア防災フェスティバル」パネル出展（富山市）	8月10日、2月	
地図教室（福井県内の小学校）	10月予定	
石川県高等学校測量技術コンテスト（石川県内）	10月下旬	
新潟県地域振興局地域整備部主催土木フェア及び商工会議所主催産業フェスティバル（新潟県中越地域）	10月下旬～11月上旬	
験潮場及び電子基準点見学（柏崎市：新潟工科専門学校）	時期未定	

●中部地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
地図教室（三重県内の小学校）	5月～10月予定	中部地方測量部 TEL 052-961-5638
地図教室（セントヨゼフ学園女子中学校）	5月18日	
教育研究会社会科教員向け地図教室（伊豆の国市立葎山小学校）	5月22日	
測量競技会への取組支援（管内農業高等学校）	6月5日	
地図教室（飛騨市立古川西小学校）	6月12日	
地図教室（浜松市立庄内小学校）	6月12日	
「測量の日」記念測量技術講演会（名古屋市）	6月13日	
地図教室（静岡市立井宮北小学校）	6月18日	
地図教室（中津川市立南小学校）	6月19日	
地図教室（あま市立美和小学校）	6月19日	
地図教室（下田市立白浜小学校）	6月21日	
地図教室（豊田市立飯野小学校）	6月25日	
地図教室（浜松市立三ヶ日東小学校）	7月2日	
国土交通 day（名古屋市）	7月予定	
地図教室（磐田市南交流センター）	8月1日	
地図教室（豊田市立豊松小学校）	10月8日	

●近畿地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
測量体験学習（京都府精華町立山田荘小学校）	5月28日	近畿地方測量部 TEL 06-6941-4507
測量体験学習（大阪府立都島工業高等学校）	5月28、30日	
兵測協献血支援活動（神戸市）	6月上旬	
「測量の日」記念フェア 2024（大阪市）	6月3日	
測量体験学習（奈良県大和高田市立磐園小学校）	6月3日	
測量体験学習（滋賀県米原市立河南小学校）	6月4日	
測量体験学習（和歌山県立新翔高等学校）	6月17日	
測量技術指導（大阪府内、兵庫県内の高等学校）	時期未定	

●中国地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
第27回中国地区測量技術講演会（広島市）	6月24日	中国地方測量部 TEL 082-221-9743
スペシャリストの会中四国支部講演会（広島市：web中継）	7月31日	
測量体験教室（広島市）	8月30日	

●四国地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
測量と地図の学習会（香川県立石田高等学校）	5月9日	四国地方測量部 TEL 087-811-1900
「測量の日」記念講演会（徳島市）	5月30日	
測量と地図の学習会（愛媛県立松山工業高等学校）	6月13日	
測量と地図の学習会（高知県立幡多農業高等学校）	6月18日	
測量と地図の学習会（徳島県立つるぎ高等学校）	6月24日	
「測量の日」記念講演会（高松市）	7月4日	
測量と地図の学習会（愛媛県今治市立近見小学校）	9月18日	
測量と地図の学習会（高知県高知市立十津小学校）	10月28日	
測量と地図の学習会（徳島県美馬市立美馬小学校）	11月29日	

●九州地方測量部

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
「測量の日」行事「稲佐山をはかろう！」（長崎市）	6月1日	九州地方測量部 TEL 092-411-7881
歩測競技「あそこまでなんぼ」（福岡市）	6月3日	
「測量の日」記念講演会（鹿児島市）	6月3日	
災害応急対策講習会（大分市）	6月4日	
「測量の日」記念技術講習会（大村市）	6月5日	
「測量の日」記念講演会（熊本市）	6月6日	
「測量の日」記念講演会（熊本市：九州測量専門学校）	6月6日	
SAGA 建設技術フェア（佐賀市）	6月12日、13日	
「測量の日」記念講演会（福岡市）	6月26日	
測量実技指導・講習会（宮崎県立延岡工業高等学校、宮崎県立宮崎農業高等学校）	6月～7月	
「測量の日」記念講演会（北九州市）	7月予定	
測量競技会（伊万里市）	8月下旬	
高校生に対するインターンシップ受入（宮崎県）	10月～11月	
「土木の日」のイベント（宮崎県、鹿児島県）	11月	
「測量の日」記念出前授業（福岡市内の小学校）	11月予定	
公共測量講習会（長崎市）	11月下旬予定	

●沖縄支所

主 な 行 事 名	開催日程	問い合わせ先
2024「測量の日」パネル展（那覇市：沖縄県立図書館）	6月5日～17日	沖縄支所 TEL 098-855-2595
出前講座（那覇市立開南小学校）	7月予定	

各行事の詳細については、
各地方測量部のウェブページでご確認ください。

▼地方測量部のウェブページ

<https://www.gsi.go.jp/LOCAL-index.html>



（総務部）

第53回国土地理院報告会 開催案内

6月6日（木）に「第53回国土地理院報告会」を日経ホール（東京都千代田区・地下鉄「大手町駅」下車C2b出口直結）において開催します。

今回は「これからの測量地図—新たな『基本測量に関する長期計画』と国土地理院の災害対応—」をメインテーマとして、国土地理院からの報告のほか、布施孝志氏（東京大学教授）による特別講演「次世代地理空間情報に向けて」を予定しています。

ご来場につきましては、事前登録制とさせていただきます。事前登録の方法等、詳細につきましては以下のURLをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPYU/2024/main53.html>

参加費は無料です。皆様のご来場をお待ちしております。

第53回 国土地理院報告会 プログラム

午前の部 10:00 ～ 11:45	開会の挨拶 国土地理院長 令和6年能登半島地震における国土地理院の災害対応について 地理院地図を活用した災害状況等の地理空間情報の提供 令和6年能登半島地震の地殻活動と地表変状をとらえる 令和6年能登半島地震に伴う斜面崩壊・堆積分布及び津波浸水域の把握とデータ提供 衛星SARを活用した新たな地盤沈下調査への取組 - 公共測量におけるマニュアルを作成 -
	《 昼休み 》
	特別講演 12:50～13:50 次世代地理空間情報に向けて【布施孝志氏 東京大学教授】 新たな基本測量に関する長期計画 全国の標高成果の改定 - 衛星測位を基盤とする新しい標高へ -
	午後の部 13:50 ～ 16:10 3次元電子国土基本図の整備 最先端の3次元測量を支えるレーザ計測技術 - 作業規程の準則の一部改正とマニュアル策定の取組 - GNSS精密暦作成に関する取組 閉会の挨拶

（企画部）

令和6年春の叙勲

4月29日、令和6年春の叙勲受章者が発表されました。

国土交通省関係の叙勲受章者は283名、うち当院関係者では、4名の方が受章されました。

瑞宝中綬章 いなば かずお 稲葉 和雄 氏（元国土地理院長）

平成26年7月退官

瑞宝中綬章 せき かつみ 関 克己 氏（元参事官）

平成24年9月退官

瑞宝中綬章 かきうち やすたか 垣内 康孝 氏（元総務部長）

平成10年11月退官

瑞宝小綬章 くまき ようた 熊木 洋太 氏（元地理地殻活動研究センター長）

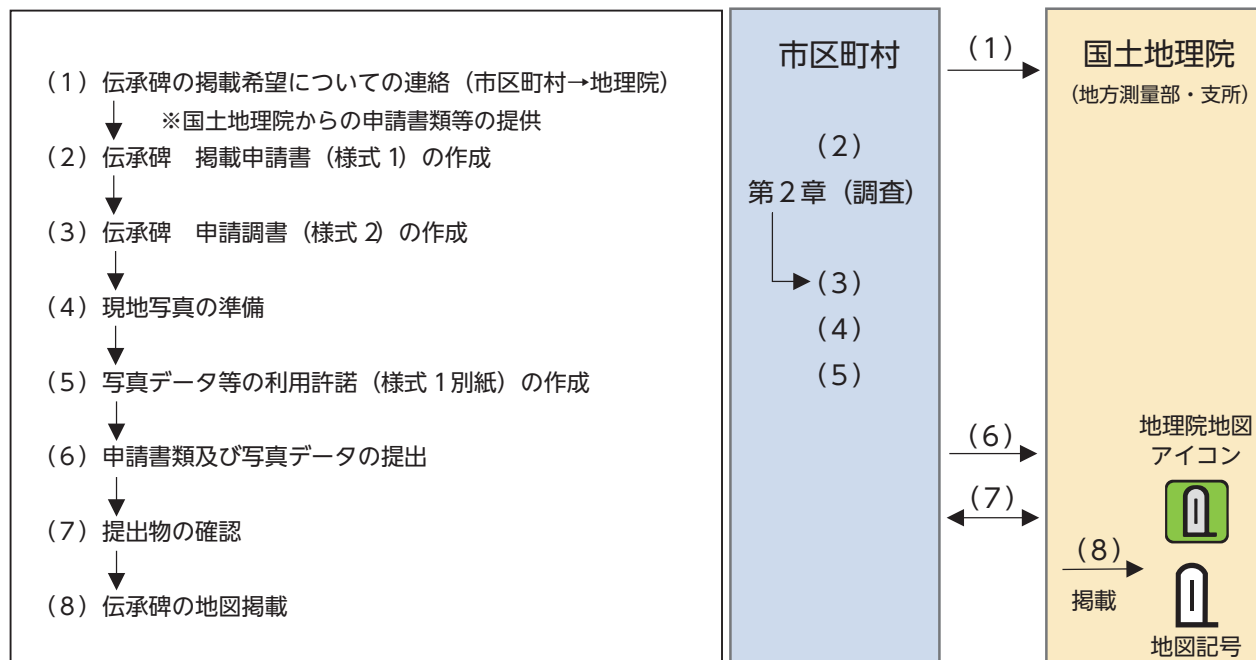
平成19年4月退官

（総務部）

47	都道府県	610	市区町村	2115	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。
【市区町村の担当者の皆様へ】 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版 (令和6年3月)」
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html をご覧ください。

4 月の報道発表

5 日	基本測量に関する長期計画の施行について	企画部
8 日	令和 6 年 3 月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2024年 報道発表資料一覧
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2024.html> をご覧ください。

6 月の主な行事予定

3/19～ 6/23	地図と測量の科学館 企画展「山の「地図と測量」 ―地形図と標高―
6/2	地図と測量の科学館 2024「測量の日」特別企画 ～地図 測量 × 触れる 学ぶ～

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ> 広報誌 > 国土地理院広報
<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/> に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
 Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>